

朝風

第1号

発行 仙台市スポーツ少年団
責任者 広報委員会
印刷 (株)宮城文化協会



SENDAI

(平成5年度)

団数 236 団
団員 8044 名
指導者 1069 名



創刊と展望

本部長 菅原 壽

仙台市スポーツ少年団では、この度、長年の念願であった、広報紙「朝風」をようやく発刊する運びとなり、皆様に創刊号をお届けいたします。

スポーツ少年団の歌「みどりの朝風」の歌詞にあるような、さわやかな団員達の活動を描ける市スポ少の機関紙として回を重ねて参りたいと存じます。今回は皆様に、愛読を希う一心で、広報委員のメンバーが懸命の努力を重ね集稿に、割付に、校正にとこの創刊を見るに至り、心から敬意を表します。

さて、市スポ少も、毎年組織拡大に取り組んで参りましたが、年々その成果を上げ、

現在二二六団を数えるに至っております。これに伴って、行事によっては市スポ少全体での実施が無理な状態になりつつあります。

例えば、指導者の質的向上を計るための指導者研修会については、指導者の数が、一、〇〇〇人を超える現状では、一堂に会して実施するのは不可能であり、平成四年度から区毎の開催を試み、一定の成果を上げています。

今後、他の事業についても、区毎に開催する方が効果的なものを選択して参りたいと存じます。

平成三年、仙台市白老町歴史姉妹都市十周年記念交流は

白老町スポーツ

少年団との交流

常任委員長

横山 定夫

仙台市スポーツ少年団と白老町スポーツ少年団との付き合いは古く、今から八年前、片平小学校に交流を求めた事から始まった。爾来、隔年の往来で交流が続いている。平成二年の二市二町合併時に最大の危機があったが、関係者の努力で切り抜け現在に至っている。

ここ数年の交流状況を掻い摘まんで記し、交流の趣旨を理解して頂きたい。

平成三年、仙台市白老町歴史姉妹都市十周年記念交流は



少年団は勿論の事、家庭バレーボール・ゲートボール等、老若男女百五十名の大集団を受け入れた。準備に六カ月、実に三日間、おまけに三日間共雨又雨、最終日お見送りは雷を伴うドシャ降り、下着までズブ濡れ、然しそれなりの満足感と皆さんの心の中に思いついて刻み込まれている事でしよう。

昨年野球部会の交流は白老町から三団の団員指導者母集団と応援団として水泳少年団も同行しての交流となった。野球交流の外、指導者母集団によるソフトボール、珍プレー好プレーに大喜びする大人の子供じみた振舞いに大爆笑、交流の節々に親善と勝負を垣間見、大いに収穫があった、と自負している。

本年は白老町に遠征の年であり、又新しい歴史を刻む事になるが、さてどんなドラマが展開するのやら楽しみは八月の下旬に実現する。

一年の始まり

入団式

六年度最初の本部事業である入団式が、五月三日に仙台市体育館で行われた。

連休の中間、小雨の肌寒い日にもかかわらず、九三団、二、一四一名の団員が、新たな三団を迎えての入場行進を行った。優秀団員の表彰や、誓いのことば等の一年の始まりにふさわしい式典に続き、記念演奏会では仙台南高校のブラスバンドが、団員や保護者にもなじみのある曲を演奏してくれた。スポーツ少年団のOBもいるという高校生の司会と演奏に大きな拍手が送られ、無事入団式を終了した。平成五年度登録は二二六団、八千名を越す大所帯のため全団参加の入団式はむずかしいと思うが、種々の本部事業への参加を願い、各団の今年一年間の活躍を期待します。

本部行事

充実した活動 「冬山のつどい」

常任委員 早坂良一

冬山のつどいは、元気なお子様を三日間お預かりし、無事保護者の方にお返しすることができて初めて事業の成功が確認できます。

参加した団員の気持ちはいかなるものでしょうか、「自分の思い通りに過ごせた団員」、「スキーがこんなに辛く苦しいスポーツと、参加を後悔した団員」、「自然のきびしさを、思いしらされた団員」…、保護者の方は「どう、スキーは楽しかった?」「冬の山はどんな感じ?」と、ぜひ聞いてあげてください。

冬山のつどいも、年々参加希望者も増え、募集定員いっぱいこの事業となりました。聞くところによると、以前は、定員を満たすために、参加協力を頂ける単位団をさがし、半強制的に参加者をつのり実施してきたこともあったようです。事務局は、過去は「うそのようだ」と嬉しい悲鳴をあげています。

また、事務局には大きな悩みがあります。レジャーセンターの解散式と同時にお手伝いを頂いた先生方に来年の指導の予約確認です。長期の冬休み明けすぐの事業であり、後ろめたさを感じながらも「来年もよろしく願います。」と奔走します。指導者も、「スキーが上手であればいい」とは言えませんが、子供が好きで、子供の中にとけこめ、そして参加団員個々のスキーのレベルを見極め適切なアドバイスができる力量がもとめられます。それにもまして仕事を冬休みに引き続き三日間も休める方をさがすのは、頭痛の種です。

年々つどいの内容もかえ、指導内容や指導ノートも改善しています。アフタースキーについては、団員を指導者の管理のもとに様々な行事を計画させ実施してきましたが、団の紹介程度にとどめ参加団員相互の自主的な交流の場を

多く設けるようにしております。「けんか」などもなくなり、団員が体の具合が悪ければ気が付いた者が報告にくるなどお互いに気づかい、協力するようになってきました。スキーのレッスンは、自己申告の班編成により行います。初心者には上・中級者がリフトに乗り、山の頂上を目指すのをゲレンデの隅から横目でにらみながら、スキーの注意事項や、用具の説明、ストックの持ち方、スキーの履き方などの説明を受けています。リフトに乗って頂上を目指したものの、何人かは再度上級・中級を目指し頑張る者もおります。初心者には、明日はリフトにも乗れるようになるからと、思い通りにならないスキーと格闘している子供達に「今日を頑張ろう」と励まします。



今年は、「遭難さわぎ」と「冬山のきびしさ」に思い知らされました。

午後四時に宿に着くはずの団員が見当たりません。同じ班の団員に聞くと、あの広い山形蔵王のゲレンデの各分岐点で「分かれた」とか、「あそこまで一緒だった」とか確かな情報がありません。

即座に対策本部を設け、四台のトランシーバーで連絡を取り合うこととしてレッスンコースとそれに連絡するゲレンデを搜索することになり薄暗くなりかけたゲレンデに飛び出しました。三十分もたった頃か、「誰々君はいまスキー乾燥室にいるよ」との情報飛び込みました。班と名前を確認したらこちらの騒ぎと裏腹に、何事もなかったかのような返事。本人は確かにこの騒ぎを知るはずもないのだから。担当指導者は反省しきり、上級者といえど最低でも宿の見えるところでレッスン終了を告げるべきであったと。例年であれば、最終日は、各班のレッスンの「成果の披露」と「雪上運動会」などをし帰路につきますが、今年は、猛吹雪に見舞われ山の頂上までいもいけず、「蔵王ロープウェイの中間駅」から二日間の

レッスンの成果を試すツアースキーとなりました。出発に先立ち、寒さに対する防備の点検、各班の人数確認、トランシーバーの点検などを出発。思ったとおり一メートル先も見えない状況、先導する者はかすかに聞こえる「リフト」の音の確認と、滑っている場所が「ゲレンデ」内か、コースの「道標」があるか、全神経をコース取りに集中、子供達には出発したときと同じ人が前と後にいるか確認させながら、それはもう転ぶことも許されない必死のツアーです。天気の良い日に一〇〇人が転ぶこともなく一気に滑る様子を想像すると猛吹雪の中、スキーも捨て切れません。しかし不思議なもので、吹雪の中では上手に滑っていたのにあたりの状況が見えるにしたがって、元気を取り戻しながら転び出します。でも、滑り方も、転び方も昨日までと全然ちがいます。自分に自信をもった行動になり、指導者も安心して見守ることが出来ます。子供達は冬山の厳しさはもとより、となりに人のいることの「大切さ」と、「心強さ」を感じたことと思

います。

本部行事

指導者研修会

常任委員長 横山 定夫

区毎の研修会が実施されて三年が過ぎた。区毎の指導者研修会のねらいは同じ地域に居を構え、スポーツを楽しみながらも、種目が異なったら、どこに誰? 地区組織とか、地域社会云々と言われて久しいが、現状はこの程度だったのかもしれないと悟り、開催に踏み切ったいきさつがある。又、近い将来に区毎の活動を夢見る多くの仲間の希望を実現させるべく、地域密着型の活動を充実させるために指導者協議会組織を早急に結成する目的も含まれている。

然し、現実には厳しい。参加者は登録指導者の1/4程度と低いのは関心が無いのか、研修会そのものに興味が無いのか、お互いに研鑽を重ねて有意義な会にしてゆかねばならないと考えている。

当然の事ながら研修会での収穫も多い! 素晴らしい活動の報告を聞き、我が団でも:

と参考にしたと考えられる事例の数々。エエと驚く様

「ジュニアリーダースクール」に参加して

南小泉スポーツ少年団

五年 八重樫 直之

ぼくは、ジュニアリーダースクールに参加して、とてもいいことを学びました。

それは、リーダーは、どういうことをするのかかわかりました。わかったきっかけは、先生やリーダーの活動です。そのほかにもたくさんしたこと

がわかりました。それと一番うれしかったことは、友達がたくさんできたことです。うるさい人もいれば、うるさくない人、さまざまな人がいました。

最初のほうは、ぜんぜん話もしもしなかったけれど、今では、気楽に話しかけています。その日の夜は、みんな、がや

な発言があり、現実とのギャップに悩んだり、そんな事柄が本来の目的に合致して来るのかもしれない。

いずれにしても数多くの指導者の皆さん達との交流と会話が団の成長となり、団員と指導者の技術的に組織的に血となり肉となる事を期待したい。今年は参加してみませんか?

がやとさわいでいました。なかなか寝れなくて、たいへんでした。その時、リーダーたちは、ぼくたちのようすをわざわざ見に来てくれました。あんなに活動して、夜もぼくたちのことをよく考えているんだなと思いました。次の日、目がさめ、寒くて、なかなか起きられませんでした。朝のつどいが終わり、朝食を食べました。次は、いよいよスポーツ活動に入りました。仲間づくりでは、友達が四人できま

した。次はいよいよゲーム。リーダー達が考えたゲームは、とてもおもしろかったです。そのあと、講話「スポーツ



めでたく修了証授与

のあり方」について、勉強しました。話しは、しんけんに聞いていたら、おもしろくなってきました。できれば、全国大会をめざしてがんばっていきたいと思います。ジュニアリーダースクールで学んだことは、忘れないと思います。リーダーや、友達のことは、ぜったい忘れません。二日間お世話になりました。

南光台東ミニバスケット少年団

五年 石井 淑

私はこのジュニアリーダースクールに来てたくさんの方とを学びました。みんなが新聞を書いた時も私はレギュラーになりたいと書いたけど、次の日に田鶴子先生に「みんな昨日の新聞にレギュラーにな

りたいとか、全国大会に出たいとかいろんなこと書いてたけど、みんなはどうして全国大会に行きたいの? 全国大会に出ると何かいいことあるの?」と聞かれてしまい、こまってしまいました。

たしかに全国大会には行きたいけど、どうして行きたいのだろうか。でも後から田鶴子先生がしっかりと教えてくれました。私はバスケットが好きだけど、お父さんに六年生になったらやめなさいと言われてしまいます。でも私はバスケットがおもしろいからやめたくないと言ったら「どうしてか」とくとかにおこられるのになんかやめられないの?」と聞かれてこまってしまいました。

でも今日なんでかんとくとかにおこられて泣くときもあるのにバスケットが楽しいかということをおしえてもらいました。だから今度お父さんにそういうふう聞かれた時は、教えてもらったことをぜんぶお父さんに話そうと思います。

でも本当にこのジュニアリーダースクールにきて自分のためにもなったし、友達もできたしとても楽しい思い出ができたと思います。

交流大会

バドミントン交流大会及び
技術講習会を開催して

バドミントン部会長 古橋 政紀

一月三十日と二月六日の二日間、仙台市レジャーセンターで交流大会及び技術講習会を開催した。

参加団員は約五十名、指導者八名で冬期にもかかわらず熱心に勉強、プレーをした。技術講習会は基本ストロークを習得させるため自動シャトル打ち機を使用した。特にこの機械は指導者の活用度合いにより効果的に練習が出来る。とあって指導者の関心が高く、また団員も正確に打ち出されるシャトルを正しいフォームで打つことが出来て自信をつけていた。

交流大会は、日頃の練習の

施、昨年は種々の事由により開催しませんでした。

試合の形式は、六年生を主体とした一部。下級生を中心とした二部の二つに分け、二部の方は二試合交流して終了、一部は予選後決勝トーナメントへ進み優勝を決めます。

将来は、宮城県スポーツ少年団大会（東北大会予選）の仙台地区予選とする方向で考えています。

△昨年度の結果▽

	優勝	準優勝	第三位
男子	長町南桜丘	中央B.H	生出
女子	寺岡蒲町	宮城野	加茂

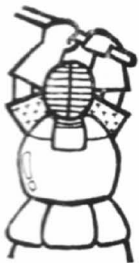
交流大会以外の活動として、九月に指導者母集団研修会と十月に元能代工業高校バスケットボール監督の加藤廣志氏（全国V三三回）による指導者技術講習会を開催し、多数の指導者を集め講演とレセプションを行い、和やかに歓談しました。テーマは「高さへの挑戦」でした。

交流大会

仙台市スポーツ少年団
バスケットボール交流大会について

バスケットボール部会長 阿部 富夫

毎年九月に、仙台市スポーツ少年団バスケットボール交流大会が親睦と技術向上を目



交流大会

卓球部会交流大会に寄せて

卓球部会長 大友 一史

雨、風をしのぎ、誰でもが簡単に、どこでも競技出来るスポーツが卓球です。

現在、野球・サッカーが、大きな舞台で競技しています。が、卓球にも世界における輝かしい記録があることを忘れられてはいないだろうか。小さなセルロイド製のボールに、目に見えないような上下・左右、緩急自在の変化など技術のあらん限りを織り交えて競技するスポーツであり、今後とも、老若男女、競い合うことの出来ることを大いにアピールして行きたいと思っています。

全員の自己紹介を行い、ボールとラケットを使った軽い運動で開始。ボールさばきなどから三つのグループに分け、指導者のもとにゲームが始まりました。

初めのぎこちなさはもう見られず、試合慣れしている高学年、どうか試合の出来る小学生と中学一年のグループ、まさに短い交流会ではありましたが、大いに汗を流したことは、団員はもとより、指導者にとっても大変大きな収穫になりました。

特に、小学生と中学一年のグループに与えた影響は大きく、同レベルの人と如何にルールを守り、如何に試合をするかを学ばせることが出来たことは交流会の後の団活動において、大きな成長となって現れております。

今年も新年早々、卓球スポーツ少年団の拡大を念じ、併せて他団との連帯性を図る恒例の卓球交流大会を黒松市民センターで団員三十名、指導者六名の参加により開催しました。

新野副本部長の挨拶、団員

これからの大いに交流会の開催を行って参りたいと思います。

交流大会

柔道学年別大会

柔道部会長 早坂征市

仙台市スポーツ少年団主催による学年別柔道大会は平成五年七月二十五日(日)午前九時半から、仙台市泉武道館道場において第四回宮城県スポーツ少年団学年別柔道大会予戦を兼ねた仙台市スポーツ少年団柔道大会が行われました。

選手男子小学生六一名、女子三七名、中学生男子三八名、女子一五名計一五一名の選手と役員や応援を含めた総ぜい二五〇名の中で一戦一戦が真剣に行われました。審判員(大会役員)の指導者の号令で暑さにも負けず、純白の柔道着に、それぞれ黄橙青緑茶黒のカラーの帯をきりと締め、元気よく試合に臨みました。

上位入賞者は九月二十三日の県大会への出場権を得、活躍が期待されます。

本大会で豆柔道マンの中には、父兄の応援に添えて投げ技の後、一本と：ガッツポーズをとるなど無邪気な一面もみうけられました。



嬉しいことに、『柔ちゃん』

効果で女子の入団希望者が増えてきたことは喜ばしいことです。男女の別なく小学生のうちには、体力増進や怪我を防ぐために『受身』等を体得させることなど柔道の底辺層を充分厚くして行きたいと思っています。また、仙台国際女子柔道選抜大会に中学生一位になった石塚真生(三段)が一般高校生に混じって奮闘したことは、我が県にとっても名誉であり、今後の活躍を期待し、当県からより多くの柔道愛好者が生まれることを願うものであります。

交流大会

剣道部会報告

剣道部会長 大沼良雄

平成五年十二月十一日から一泊二日で『友情を育て、団体生活の規律を学ぶ』を目的に宮城県仙台青年の家で、剣道部会主催の錬成会を、団員四六名・指導者七名参加のもとに実施しました。

稽古は、南小泉の武田師範の師事に従い基本から掛稽古まで、二時間を団員達は爽快な汗を流した。夜の研修会では、講話として「剣道は日本民族の文化であり、自他共栄から世界平和につながる」と言った内容を解りやすく話してもらった。

※参加団員のアンケート

◎剣道を始めた動機

一、自分から 二〇人
二、おじさんに勧められた 一〇人
三、父母 一人
四、友達 五人
◎剣道を始めてからの徳目
一、友達が増え、いろんな人と話せるようになった
二、手先が器用になった
三、礼儀正しくなった
四、好き嫌いがなくなり、体が丈夫になった
五、大声が出るようになった
六、忍耐力がついた
七、剣道が強くなり、楽しくなった
以上が団員の素直なきもちです。

新人バレーボール交流会

バレーボール部会長 菊地幹夫

「これまでは、六年生のかげに隠れていましたが、今日という激励の挨拶のもと、十二月二十六日、泉体育館と泉海

洋センターの二つの会場に分かれ新人大会が行われました。基礎技術の修得とゲームに親しみバレーボールの面白さがわかるという目標で始められたこの大会も二年目を迎え、年間の主要な定例行事として位置づいたようです。

六年生をしのぐような素晴らしいプレーがあったかと思えば、可愛らしいしぐさも見られほほえましい一日でした。結果は、優勝・大沢、茂庭台、上杉、泉ヶ丘の四チーム。大きな優勝カップを手にして嬉しそうでした。惜しくも決勝で敗れた向陽台、芦の口、燕沢、松森のチームの健闘を讃えたいと思います。

六年生以外の子も試合に出場できるというチャンスに恵まれ下級生の励みになる大会です。各団の協力を得ながらすばらしい大会になるよう、今後努力していきたいと思えます。



審判講習会

サッカー部会

サッカー部会長 菊地光夫

七月四日(日)指導者・父兄を対象として東北工業大学体育館において「審判講習会」を開催。

近年団員の増加に伴い父兄の関心も高くなり、またかつての団員が社会人となって後輩の指導にあたるなど、指導者の若返りもあってか、参加者一〇名、うち新人父兄七〇名が参加し一層の盛りあがりを見せた。

講師として、宮城県サッカー協会から、一級審判員の松本孝志氏、二級審判員でインストラクターの栗原益男氏を迎え、松本氏の競技規則一七条について、わかり易くしかもユーモアたっぷりの解説に参加者は深くうなづき、ときには大きな笑いもあるなど終始なごやかな中で前半の講義を終了。

後半は栗原氏指導による実技講習に入り、紅白それぞれに分かれ、実際にゲームする

審判講習会

空手部会審判講習会

空手部会長 小山睦生

平成五年十月十日仙台市民スポーツレクリエーション・フェスティバルin仙台の一環行事として、第三回仙台スポーツ少年団空手道交流大会が近隣市町村からの参加をいただき開催された。

これは仙台市だけでは未だ登録団が少なく、単独開催が困難なのでこういう形をとってきている。

大会開催に先立ち、指導員を対象に審判講習会が開催された。

空手道競技は型と組手の競技があるが、基本的には世界統一ルール、世界空手道連盟

行動することの違いを肌で感じたようである。

とかく主審に対する批判が多いが、スポーツの指導はルールの正しい理解が必要であり、またルールを理解しての観戦はそのスポーツに対して一層興味が深まるので、こんご更にはげんで欲しい、とむすび盛会裡に終了。

平成五年十月十日仙台市民(WUKO)の競技規定及び審判規定により国内の国体・全日本空手道連盟関係の諸大会等が行われ、審判員も公認資格制度を取っている。スポーツ少年団の交流大会も基本的には統一ルールで実施されている。

これは格闘技の場合、危険が伴い、安全性の確保が第一であり、審判員の役割は重要である。

講習会は宮城県空手道連盟審判部会長田中健治公認審判員(仙台市高砂拳友会スポーツ少年団代表)の指導により、ルールの解釈、審判員のジェ

スチャー等短時間ではあったが、参加者の各団指導員一人は真剣に指導を受け「二本！技あり！」の大きな声が講習会場に鳴り響いた。



↑楽しい新聞作り

<ジュニアリーダーズスクールより>



新聞紙乗りゲーム→

編集後記

広報委員長 佐藤田鶴子

初めての広報紙発刊にあたり、総会の事業報告では伝わりにくい、生の声を届けたく、各部会長さんに寄稿いただき、各団の活動の様子、雰囲気を感じていただければと思います。

次号には、より見やすい紙面をめざして、工夫をしてゆきたいと思っておりますので、各団の特色ある活動の様子などを、写真を添えてぜひ投稿して下さい。母集団の方からの感想・ご意見なども大歓迎です。発刊にあたり、題字を揮毫してくださった、仙台市体育協会副理事長の鈴木孝夫先生に、厚く御礼を申し上げます。